

## 1-4 現代におけるコムーネの属性

現代においては、都市および、そのテリトリー(都市のもつ領域)を指して、「コムーネ comune」という言葉が用いられる。都市とひとくくりにしてしまったが、日本式でいう「市・町・村」のような規模の差がみられない。もちろん、言語としては小さな町、村というニュアンスを示す言葉が存在するが、行政的にはどこも「コムーネ」となる。

日本語では、「地方自治体」あるいは「基礎自治体」として訳される。

### ■マッサ・マリッティマの空間的特徴

マッサ・マリッティマを行政的にいうと、「コムーネ・ディ・マッサ・マリッティマ Comune di Massa Marittima」となる。人口からみれば、日本的な市町村でいえば「町」である。だが、これまで見てきたとおり、中世には独立国家であったこと、また、人々が中心部に集住してきたことなどから、「都市然」とした空間構造を持っているのが特徴である。

近年の日本におけるトスカーナ観光ブームのなかで、「トスカーナの田舎町」というキャッチフレーズがよく使われたことが記憶に新しい。マッサ・マリッティマもその類に入るのではないかと思うが、中心部に関していえば、あまり「田舎然」とはしていない。ただ市街地を一步出ると、あたりには一面の田園風景が広がる。つまり、日本のいわゆる「田舎」とはイメージが異なっている。

マッサ・マリッティマについて語るとき、時には「都市」といったり、時には「小さな町」といったりするるのであるが、それはこういった理由によるものである。行政については、マッサ・マリッティマ市、市役所、市長と統一していきたいと考えている。



図 1-16 マッサ・マリッティマの「都市」と「田園」 ※筆者撮影

ヨーロッパの都市構造を説明するときに、よく「都市」と「田園」の対比がある、ということがいわれるが、マッサ・マリッティマはまさにその典型で、ヨーロッパ的な歴史的都市の構造をミニマムなかたちで表現しているといつてよい。

次節でその構造を具体的に見ていくが、この節では、マッサ・マリッティマというコムーネの、現代イタリアの中における位置づけというものを確認する流れで話を進めたい。

### ■現在のトスカーナ州の構成

歴史の中でのトスカーナはすでに見てきたが、現在のトスカーナ州について、下に図で説明する。州都はフィレンツェにあり、10の県 provincia から成る。県名は、すべて県都 capoluogo di porvincia (日本でいう県庁所在地)の都市名に一致する。

マッサ・マリッティマが属しているのは、州最南端のグロッセート県であり、西は海に開け、南はラツィオ州(州都はローマ)に陸続きで隣接している。州内では、リヴォルノ県、ピサ県、シエナ県の3つの県に隣接している。

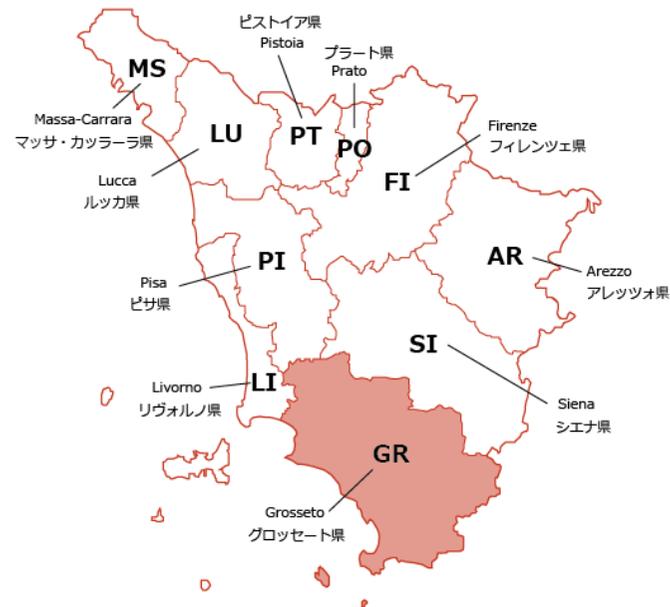


図 1-17 現在のトスカーナ州、県別の境界線を記したもの